

うまい!

# 岩船米づくり情報 No. 5

平成 28 年 6 月  
岩船米技術者会議  
村上農業普及指導センター  
JA にいがた岩船

出穂期予想は平年より 3 日程度早い予想...

中干し後は間断かん水、早生の穂肥は遅れずに!

## — 重点事項 —

- ◎ 中干し終了後は、根の健康維持のため間断かん水から徐々に飽水管理に移行する。
- ◎ 早生品種は遅れずに、適期・適量穂肥の実施により、籾数確保を図る。
- ◎ コシヒカリは、出穂 30~40 日前頃のケイ酸追肥により、体質強化を図る。

## 1 6月20日現在の生育状況【普及センター調査ほ】

【コシヒカリ】※平均は6地点の水稲作付面積に応じた加重平均

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
山北/大毎	5/ 8	40	108	108	392	105	105	8.9	+0.9	+0.1	41.3	+3.3	+1.5
朝日/川端	5/12	46	121	115	479	129	123	9.3	+0.8	-0.3	39.4	+0.4	-1.7
村上/鑄物師	5/19	40	105	103	229	55	90	8.4	-0.1	+0.4	36.1	-0.9	-3.1
神林/牛屋	5/10	43	123	130	611	175	201	9.2	+1.0	+0.7	38.3	+1.8	+2.3
荒川/名割	5/ 8	34	103	113	327	131	115	7.9	-0.1	0.0	36.4	-1.6	+0.3
関川/下関	5/10	35	106	118	303	108	101	8.2	+0.1	-0.2	39.8	+0.8	+1.3
平均	5/11	40	114	117	427	128	134	8.7	+0.5	+0.1	38.4	+0.5	+0.2

【こしいぶき】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
神林/牛屋	5/10	39	126	130	576	180	217	9.6	+1.1	+1.1	39.8	-0.2	+0.1

【五百万石】

調査地点	田植日	草丈 (cm、%)			茎数(本/m <sup>2</sup> 、%)			葉数 (葉)			葉色 (SPAD)		
		本年	指標比	前年比	本年	指標比	前年比	本年	指標差	前年差	本年	指標差	前年差
村上/鑄物師	5/12	38	112	93	308	81	70	9.7	+1.2	0.0	39.5	+1.5	-1.5

## 2 6月20日現在の出穂期予想(5/10 植え) ~「3日程度早い」~

熟期	品種名	出穂期 (予想)	穂肥時期(出穂前日数)				合計施肥量 (チツソ kg/10a)
			1回目		2回目		
早生	こしいぶき	7月28日	7/ 5	(23)	7/14	(14)	2~3
	五百万石	7月24日	7/ 4	(20)	7/16	(12)	1~2
	新潟次郎	7月20日	6/25	(25)	7/ 5	(15)	6
中生	コシヒカリ	8月 7日	7/20~7/23	(18~15)	7/28	(10)	1~3
	こがねもち	8月 1日	7/14~7/17	(18~15)	7/22	(10)	1~3

※出穂期は、地域やほ場条件、今後の気象条件で大きく変動するので、穂肥の施用に当たっては、各ほ場の幼穂を確認するなどしましょう。

※飼料用米(新潟次郎)は、6月中に1回目の穂肥を積極的に施用しましょう。

※穂肥は一般栽培のめやすであり、生育状況に応じて時期や量を調整しましょう。

### 3 中干し終了後の水管理 ～間断かん水から飽水管理へ～

○中干し終了後は浅水の間断かん水を実施し、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努めましょう。

●急激な湛水は、根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上がりを生じさせるので、行わないでください。

○幼穂形成期以降は、飽水管理（水がなくなったらかん水を繰り返す方法）や湛水管理を行いましょ。

※中干し終了後7月上旬（出穂1ヶ月前）にかけては、夜温が上昇すると上位葉が急伸長し、下位節間の伸長（＝倒伏）につながるので、草丈伸長を抑える節水管理（間断かん水）を行いましょ。

※低温が予想される場合は、深水管理を行って幼穂を保護しましょ。

うまい米づくりには健全な根が大事！



### 4 早生品種の穂肥施用のポイント ～遅れず適期に施用～

○早生品種の1回目の穂肥施用は、収量確保のため適期を逃さず確実に実施しましょ。

●生育量が極端に大きく倒伏が懸念される場合などは、遅め控えめの対応としましょ。

#### 穂肥の効果

出穂前日数	10日以内	10～15日	20～30日	30～35日
一穂粒数増加	×	◎	◎	×
登熟の良好化	◎	◎	◎	×

#### 幼穂長と出穂前日数の関係（コシヒカリ）

出穂前日数（日）	幼穂長（cm）
24	0.1
20	0.2
18	0.5～1.0
12	4.0～6.0

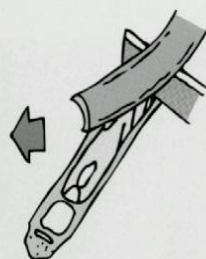
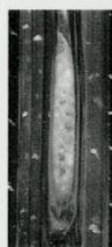
※ほ場内の平均的な株から最も長い茎を抜き取り測定する。

※数株から採取し総合的に判断する。

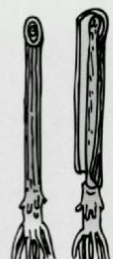
#### 幼穂長の確認方法

##### 【幼穂の長さを確認する】

〈その1 カッターなどで割る〉



〈その2 葉鞘をむく〉



#### （参考）出穂前日数とイネの外観

24日前	次葉（止葉の下の葉）抽出開始
18日前	止葉抽出開始

### 5 コシヒカリのケイ酸追肥 ～穂肥の前の体質強化～

○水稲は幼穂形成期以降ケイ酸の吸収量が急激に増加します。

○猛暑を乗り切る稲体づくりには、ケイ酸追肥が有効です。

○出穂30～40日前に、ケイ酸肥料を追肥し、稲の体質強化と根の健全化を図りましょ〔例〕けい酸加里プレミアム34又はマルチサポート2号：20～40kg/10a〕。

#### ～水稲におけるケイ酸施用の効果～

- |             |   |               |
|-------------|---|---------------|
| ① 根の活力向上    | ➡ | ① 耐冷性・耐暑性の向上  |
| ② 茎質の強化     |   | ② 耐倒伏性・耐病性の向上 |
| ③ 粒の増加・肥大   |   | ③ 収量の向上       |
| ④ 炭水化物の転流促進 |   | ④ 登熟・品質の向上 など |

猛暑に備えましょ  
❤️

